

認知に応じた環境の調整

保育士、幼稚園・小学校教諭向け連続講座 第4回 ご報告

1 認知とは

知覚「聞く、見る、感じる」、記憶「記憶する、情報を処理する」、思考「思う、考える」の3つの働きをまとめて『認知』という。発達障害の子どもたちは、環境からの情報を適切に受け取り、取り込んで、活用することに“つまづき”がある。

2 認知の“つまづき”

1) 聞くこと、見ること、感じること

- ・言葉の聞き取りが正確にできない
- ・一つの言葉にこだわり、全体の理解が難しい
- ・特定の事象だけに視線が向いて、全体の状況をつかめない
- ・自分と物との距離感がつかめず、多くの物から必要な物を取り出すことが難しい

2) 記憶すること、情報を処理すること

- ・2つ以上の指示を覚えて行動できない
- ・物事の見通しをもつことが出来ない
- ・時間の流れを把握できない
- ・行動の計画が立てられない

3) 思うこと、考えること

- ・柔軟に物事を考えられない
- ・自分の考えに捉えられ、人の意見を受け入れられない
- ・失敗、間違い、負けることを極端に避ける
- ・失敗するとこの世の終わりのように思ってしまう

3 認知の“つまづき”をもつとどうなるか

- 様々な生活場面で、見通しがもてない → 不安になる
- 人とのコミュニケーションや場に応じた振る舞いが身に付きにくい → 人と関わるときに混乱が生じる

4 個々の認知に合わせた環境調整

足の不自由な人は「車椅子」、視力の弱い人は「メガネ」が必要なのに同じように、認知に偏りがある子どもたちには、

※見知らぬ外国の地で一人で暮していることと同じ（先住民の中で暮らす）

⇒認知の偏りに応じた、わかりやすい環境

⇒認知の偏りを一人一人評価して、その状態を尊重しながら環境調整を考える

【TEACCHプログラム】

ノースカロライナ州における自閉症児・者への全集規模の総合的な支援ネットワーク

その中の基本的かつ重要な概念、療育技法を構造化したもの

- ① 場所の構造化 ⇒ 場所をわかりやすくする。遊ぶ場所、運動する場所、静かにする場所…
刺激を調整する。物を片付ける・減らす、パーテーション、家具の配置…
- ② 時間の構造化 ⇒ スケジュールの明示。目で見える情報で整理して示す。
×聞いて理解する ○見て理解する
- ③ 課題の構造化 ⇒ いつ（どんな順序で）、何を（どんな活動を）、どれくらい…
終わったあとに、何が起きるのか…課題を明確に。
- ④ 視覚の構造化 ⇒ 視覚の手がかり、見てわかるようにする。
他者と場を共有するためのルールが必要。

ギャップを丁寧に埋めていくこと、それが教育である。 By. エリック・ショプラー医師